



# ふくりゅう

特定非営利活動法人  
日本下水道文化研究会会報

発行責任者 酒井彰(運営委員会代表)

平成18年7月25日

通巻47号

## 日本下水道文化研究会 第10回 総会報告

去る5月20日(土)、例年どおり日本水道会館で、委任状を含め142名の出席により第10回総会が開かれました。当日は総会に先だつて午前中に評議員会が開催されましたが、その席上で西堀評議員代表から表明されていた辞意が承認されました。総会では、冒頭にそのことが報告され、当会の発足以来物心ともにいただいた永年にわたる多大なご支援や、また研究会活動へのご貢献など、そのご功績に対して、酒井代表が謝辞を述べるとともに感謝状をお渡ししました。西堀元代表からは「約20年前の創立時から、稲場先生をはじめとする皆様との仕事が非常にいい思い出になっている。今後は地道な応援をさせていただきたい。当会のさらなるサステナブルな発展を期待する。」との趣旨のご挨拶をいただきました。

総会の第一部では、各分科会や支部活動の報告を行いました。尿尿・下水道研究会分科会(従来の尿尿研究会)からは、施設見学会や講話例会、講話内容の英訳とその普及活動、「ごみの文化・尿尿の文化」出版等について報告がありました。海外技術協力分科会からは、バングラデシュでの尿尿分離トイレの普及活動が2年を経過し、新たなモデル地区を設置するとともに、これまでの地区との比較など次の段階に入ってきたことが報告されました。また関西支部からは、他NPOとの共同や見学会など多彩な活動ぶりとともに、ともしれば関係者主体になりがちな活動を、いかに市民に関心を持ってもらうかに腐心しているという思いが伝わりました。

予定時間を過ぎるような各会・支部の熱の入った報告は、日常活動の充実ぶりがよく判るとともに、会員に対する説明責任を十分に果たしたものになっています。従来のような特別講演もいいのですが、それに負けない内容ですから、来年度以降もぜひ多くの方にご出席いただきければと思います。

第二部では、最初に5月7日にご逝去された賛助会員である(株)水環境研究所の西田哲夫社長への黙祷を捧げました。次いで議事に入り、まず酒井代表を議長に指名し、下記のとおりに進められました。いずれも議案書のとおり、滞りなく承認されました。

議案第1号の1「平成17年度事業報告」・議案第1号の2「会員現況報告」報告者：高橋運営委員  
議案第2号の1「平成17年度収入支出状況報告」報告者：佐藤運営委員、議案第2号の2「平成17年度会計監査報告」報告者：松田監事  
議案第3号「財産目録」報告者：佐藤運営委員  
議案第4号「役員の変更」提案者：高橋運営委員  
議案第5号の1「平成18年度事業計画」提案者：高橋運営委員、議案第5号の2「事業会計予算書」提案者：佐藤運営委員  
議案第6号「総会議事録署名人の選任」提案者：高橋運営委員

最後に木下新評議員、谷口新監事より就任のご挨拶がありました。また、総会終了後には懇親会が開催されました。

### 新任の挨拶(要旨)

木下哲新評議員「前任の西堀評議員にかわりまして、これから会のために微力ながら尽力させていただきたいと思えます。同じ会社の間人ではありませんが、非常に偉大な代表評議員を勤められた、その後を私が穴うめできるものでもございません。しかし、これから一歩二歩、評議員としての役目を果たさせていただきたいと思えます。皆様からのご指導ご鞭撻をいただきたく、宜しくお願いいたします」

谷口尚弘新監事「非常に苦しい財政の中で、執行部が苦勞をされております。私も立場は違いますが、監査という立場で温かい眼で見守っていきたくと思っておりますので、宜しくお願いします」

(運営委員：稲村光郎)



総会参加者(懇親会の後で)

## バルトン生誕150年記念講演会が開催されました

William Kinnimond Burton (ウィリアム・キンニモンド・バルトン) 生誕 150 年記念事業の一環として、去る 5 月 13 日(土)午後 1 時より東京都庭園美術館大ホールにて記念講演会が行われました。当日はあいにく朝から雨の降る空模様でしたが、200 名を超える方々が参加されました。当研究会はこの事業の後援団体として企画段階から参画しています。

主催者を代表して、企画実行委員会委員長の藤田賢二東京大学名誉教授が開催の挨拶を述べた後、国土交通大臣(代読 江藤隆下水道部長)、厚生労働省健康局長ならびに英国大使館代表からの来賓祝辞がありました。

基調講演では藤田賢二氏が「わが国衛生工学の始祖バルトン」と題して、バルトンが 1887 (明治 20) 年 5 月東京帝国大学衛生工学専門教師として来日してから後の活躍を、学内に残っている記録や論文・著書を紹介しながらその業績を示され、「技術者が尊敬される土壌を日本に築いてくれたことを感謝したい。これはバルトンが、土木、機械、化学に対し並外れた知識を持っていたからであり、上下水道という総合技術を指導するのに最適な人でした。また、計画・設計を行う際、現地に教え子を同道し実地に教育した実学の人でした」と結ばれています。

第 1 部記念式の締めとして、バルトンの子孫に当たるケビン・メッツ氏ほかによる津軽三味線の演奏がありました。

休憩の後、稲場紀久雄氏(大阪経済大学教授)、加藤詔士氏(名古屋大学大学院教授)および金子隆一氏(東京都写真美術館専門調査員)から、それぞれ「バルトンの夢～その生涯を訪ねて～」、「日本近代化の中のお雇い教師、W・K・バルトン」、「写真家 W・K・バルトンが日本写真史に果たした役割」と題する、第 2 部講演がありました。

稲場氏は、バルトンの故郷であるスコットランドのエジンバラに赴い

での 150 日間におよぶ人物像把握調査の過程で入手した多数の写真を紹介されました。当時のスコットランドの自主独立、海外雄飛への願望という土地柄が、バルトンを日本に導いた要因の一つであろうと指摘したうえで、土木技術者であった叔父コスモ・イネスと共同でロンドンで「環境衛生に関するコンサルタント会社」を運営していたが、ここで持ち込まれた様々な技術的な相談事を解決してきたことが衛生工学の専門技術の習得につながったのであろうとしています。



稲場紀久雄氏

加藤氏は、お雇い教師のなかではクラーク、ベルツ、モースなどに比べて、バルトンは必ずしも著名ではなく本国の英国でもあまり知られていないが、「12 年ほどの日本在住のあいだに、かれは一生分の仕事をやってのけた」、「近代明治日本の形成に対するかれの貢献は、歴史書に書き留めないでおくことは許されないであろう」とする論評を挙げるとともに、「驚くほど簡単に日本社会に溶け込み」、「日本語が話せるようになり」、「日本女性との関係を正式なものとした数少ない人」という点は特筆されることで



墓前で演奏するケビン・メッツ氏



バルトン墓前にて



あると述べています。

金子氏は、ロンドンにいた頃からすでに卓越した写真の撮影技術をもっていたアマチュア写真家としてのバルトンの日本における足跡を追っています。バルトンは、1889（明治22）年5月の「日本写真会」の設立に関わり、また1895（明治28）年には石川巖訳で写真集「写真新書」を上梓しています。バルトンは、写真というものが社会の中でどのように機能しうるものなのかを、自らの実践をもって日本の写真界に示した多彩な「写真人」であったのです。

なお、講演会場の隣の小ホールにおいて、バルトンが撮影した写真、曾孫に当たります鳥海幸子氏の描かれた絵

画などが展示されました。

#### バルトン墓碑への墓参

翌14日（日）、青山霊園にありますバルトン墓碑に墓参しました。前日とは違って変わって太陽が顔を出す暑い陽気となりました。墓前では、稲場氏のあいさつの後、小林さんのバグパイプによる「アメイング・グレイス」の演奏から始まり、ケビン氏の津軽三味線、さらにはお二方による即席の合奏が披露されました。その後、各参会者による献花を行いバルトンの業績を偲びました。

（運営委員 地田修一）

## W・K・バルトン生誕150年記念英国訪問ツアーの募集

W. K. バルトン生誕150年記念事業は、スコットランドと日本、両国が互いに協力して、企画を進めて参りましたが、9月にスコットランドで開催される記念事業のプログラムもほぼ確定いたしました。そこで、スコットランドで行われる記念事業への参加のための訪問ツアーを企画しましたので、ツアー参加者を募集いたします。

**主催：**W. K. バルトン生誕150年記念事業企画実行委員会  
（委員長 東京大学名誉教授 藤田賢二）

**協力：**スコットランド協力委員会  
（委員長 David Patton）

**期日：**2006年9月4日（月）～9月13日（水）10日間

**事業内容：**バルトン記念碑除幕式、バルトン記念講演会（2回）、バルトンに関する展示会（2回）、水環境シンポジウム、英国上下水道施設の視察

**訪問場所：**英国アバディーン市、エディンバラ市、ロンドン市

**募集人員：**約20名

**参加費用：**約342,000円

※ スコットランド協力委員会の配慮によりアバディーン及びエディンバラの宿泊は大学付属のB&B、また移動

のためのバス借り上げ等は現地払い（ポンド建て）になるため、金額には約がついております。

※ ツアーではスコットランド・イングランドの水道近代遺産なども巡ります。詳しい日程表は本会ホームページを参照してください。

<http://www.jca.apc.org/jade/baroton/2006/eikokunittei.doc>

※ ロンドンでの宿泊はシティホテル（スーパーリア・クラス）です。

※ 昼食・夕食代は含まれておりません。

※ **追加費用：**ビジネスクラス追加料金 418,000円  
1名1室利用時の追加料金 25,000円  
（ロンドンのホテル2泊分）

**申込期限：**2006年8月10日（木）

満員になり次第締め切ります。

**参加申込方法：**Mail または電話にて下記宛にご連絡いただきますと、詳細プラン、参加申込書を送付いたします。

申込先及び問合せ先：

W. K. バルトン生誕150年記念事業企画実行委員会事務局

E-Mail: [naohiro\\_taniguchi@tokyoengicon.co.jp](mailto:naohiro_taniguchi@tokyoengicon.co.jp)

Tel: 03-3580-2751 Fax: 03-3580-2749 谷口尚弘氏

### スコットランドでのバルトン生誕150年記念事業・主なプログラム

9月6日（アバディーン市庁舎）：バルトン記念展示会、講演会

9月8日（ヘリオットワット大学、エジンバラ市）：水環境シンポジウム

9月9日（ナビーア大学、エジンバラ市）：バルトン記念碑除幕式、記念講演会、展示会

※ 本記念事業は英国大使館ホームページでも紹介されています。

[http://www.uknow.or.jp/be\\_e/embassy\\_news/E000453.htm](http://www.uknow.or.jp/be_e/embassy_news/E000453.htm)

### 『ごみの文化・屎尿の文化』を刊行しました

屎尿・下水研究分科会

このたび、屎尿・下水研究分科会では、廃棄物学会ごみ文化研究部会との共編で、技報堂出版（株）から『ごみの文化・屎尿の文化』（B6判、240頁、定価2,310円）を刊行いたしました。一話読切り形式ですので、気軽に拾い読みできる構成になっています。

屎尿・下水研究分科会は、すでに同社から『トイレ

考・屎尿考』を3年前に上梓していますが、今回の刊行はその姉妹編としての性格をもっています。有価物変じて廃棄物となる、あるいは今まで廃棄物であったものが逆に有価物に様変わりする、今日の社会情勢の変化を視野に入れて編集しました。

本書には、失われようとしているごみ・屎尿にまつわ

る記憶や資料、施設・道具、風俗・習慣などを掘り起こし、その文化的側面にスポットを当てた37の話が収められています。

プロローグでは、対談形式でこの本の内容を俯瞰しています。各論は、ごみの文化史、尿尿の文化史、ごみと尿尿の技術史、トイレの文化史、有価物から廃棄物へ、人物誌、発展途上国における尿尿事情の7つの章から成っています。尿尿、トイレに関わる話題は、尿尿・下水研究分科会の講話をもとに書き起こしたものが中心です。

今回、税込み定価2,310円のところで、著者紹介特価ということで税・送料込み2,200円で頒布いたします。出版社\*へ日本下水文化研究会会員であることを断わったうえで、郵便またはFAXにて申し込んでください。なお直接、出版社に訪問して購入する場合は、1,850円での頒布となりますが、あらかじめ電話(03-5217-0881)で在庫を確かめてから出向いてください。

\*〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-2-5  
和栗ハトヤビル 技報堂出版(株)、FAX 03-5217-0886

### 売れています「ごみの文化・尿尿の文化」

紀伊國屋書店 BookWeb の分野別の売れ筋ランキングにおいて、「ごみの文化・尿尿の文化」は廃棄物分野で最近1ヶ月では2位、最近6ヶ月でも7位にランクされています。(7

月20日現在)最近1ヶ月の1位はダントツで「循環型社会白書」ですから、廃棄物関係の一般書、専門書で今一番ホットな図書になっているということです。

### 『ごみの文化・尿尿の文化』出版記念会のお知らせ

本書の出版を記念し、廃棄物学会ごみ文化研究部会と共催で出版記念会を催すことになりましたので、皆様ふるってご参加下さい。当日会場で、著者割引価格(1,850円)で販売します。記念講演終了後懇親会も開催いたします。(参加費300円)

日時：2006年8月5日(土) 午後1時より受付開始

場所：日本水道協会8階第6会議室

〒102-0074 東京都千代田区九段南4-8-9

第一部(13:30より)

開会挨拶、出版の経緯(地田修一)、編集長挨拶(小巻慎)、執筆者として(稲村光郎)

第二部 記念講演

龍谷大学 占部武生教授  
東洋大学 北脇秀敏教授

連絡・お問合せ 携帯電話090-8052-5353(石井)

## 第41回 尿尿・下水研究会例会「写真を読むー管きよの建設と清掃」を聴いて

日本大学芸術学部映画学科 大友慎太郎

尿尿下水研究会の例会「写真を読むー管渠の建設と清掃」(6月9日、講師 地田修一氏)に参加させていただきました。お話をきいてまず驚いたのは、江戸の時代を開けて間もない時代に、これだけの技術が汚水の処理に用いられていたと言う事です。

当時の日本の町並みが、疫病が大量発生していた欧州などと比べて飛び抜けて綺麗であり、来日した欧米人がとても驚いたと言う事は史実として広く知られていますが、それは尿尿に畑への肥料としてのニーズがあったからこそできた事であったのだと思っていた私は、今の下水道のひな形であるシステムとしての尿尿処理技術が明治の時代に既に確立されていたという事実に、単純にハッとさせられました。

更に、こうして造られたそれらの施設のうちの「和泉町ポンプ所」が、関東大震災や東京大空襲などの時代の節目や天災の被害を受けつつも、今なお神田で現役で稼働して

いるという事にも、とても驚くと同時に、当時設計されたシステムが現代にも通用するという点に、潜在的とも呼ぶべき日本人の綺麗好きの精神を垣間見た思いでした。

90年近くも以前になるこうした写真には、今の時代にあらためて見てこそ鮮烈に写るものが多々あります。今回の例会のような視点でこうした写真を見つめ直すと言う事は、今まで気付かなかったような部分に気づけると言う事ではないでしょうか。このような写真が技術史的な観点のもとで資料価値のあるものとして再構築されていく事には、技術史として綴っていく以上の意味があるように思います。下水処理施設の原点としてのこれらの資料達には、現代の技術が見落としている様々なヒントが隠されているかもしれません。古い現場の写真が、問題の山積しているこれからの下水処理技術の指針となることも、全くありえない事ではないのではないのでしょうか。

### 尿尿・下水研究会 第42回定例研究会のお知らせ

今回は、下水等のマンホールのお話です。石井さんの文献調査で無い、実際に実物のマンホールを見て研究した成果には驚くことが多いはず。お楽しみに。

日時：平成18年9月8日(金) 18:30より

講師：石井 英俊氏(東京都下水道局)

演題：「銀輪で集めたマンホール蓋のデザイン」

場所：東京ボランティア・市民活動センター B会議室  
(セントラルプラザ 10階) 新宿区神楽河岸1-1

JR、地下鉄飯田橋駅下車徒歩1分

TEL：03-3235-1171



## 第37回定例研究会のお知らせ

## 齋藤健次郎氏「ロンドンの下水道とバザルゲットの業績」

第37回日本下水文化研究会定例研究会（兼 第43回尿尿・下水研究会例会）を下記の要領で行います。ふるって参加してください。

記

講師：齋藤健次郎氏

演題：「ロンドンの下水道とバザルゲットの業績」

日時：平成18年10月5日（木）18:30～20:30

場所：東京ボランティア・市民活動センター A会議室  
※ 会議室以外は尿尿・下水研究会と同じです。

講師の齋藤健次郎氏は、建設省（現国土交通省）を退官後、団体職員を経て現在は㈱日水コン顧問をされておられます。工学博士。

主な著書：「森鷗外と下水道」、「物語 下水道の歴史」、「英国における下水道技術の源流」他多数。

バザルゲット；ジョセフ・バザルゲット(1819-1891)は「ロンドンの下水道の父」と呼ばれています。19世紀半ば、ロンドンではコレラが何度も大流行しました。当初、原因は不明でしたが、テムズ川の上流と下流は死者の数が違ったり様々なことが分かってきました。1853年スノウが、水道水汚染がコレラ流行の原因と突き止めました。

バザルゲットは水道水源であるテムズ川の汚染を減らすために、下水道計画立案しました。何度も反対にあった

にもかかわらず「2万km<sup>2</sup>下水管改良、50万立方メートルの下水を集め、テムズ川北3本、南2本のしゃ集管の計画」を立案し、工事を推進しました。この偉大な工事は1875年完成しました。

この話は、齋藤健次郎著「物語下水道の歴史」（水道産業新聞社1998）に詳しく記述されています。

(運営委員 石井明男)

## 第20回多摩源流まつりに参加して

本会評議員 齋藤 博康

平成18年の源流まつりは5月4日(木)、第20回イベント(水と火と味の祭典)として催されました。日本下水文化研究会は恒例によってこの行事に参加しましたが、子供を含めて総勢27人の参加者がありました。まつりは小菅村スポーツ広場を埋め尽くす大勢の参加者により、自然体験、味体験、パフォーマンス・ゾーンなどに分かれて賑やかに行われました。暗くなってからは高さ20メートルのお松焼きや峡谷にこだまする打上げ大花火が参加者に強い感銘を与えました。

山伏姿で口上を述べた小菅村長さんの「奥多摩の自然によって生まれた源流地域はこの間、江戸、東京に水を送り続けてきた…」の言葉は、源流を守ってきた地元の人々の多摩川に対する強い思いを伝える言葉として心に響きました。

27人の参加者は民宿「山水館」(船木幸二さん経営…元東京都水道局長船木嘉久郎さんの甥御さん)に一泊し、翌日(5日)は20人が宿で用意したおにぎりを持って笠取山の多摩川源流(水干)を目指してハイキングしました。好天に恵まれ、登山道も東京都水道局による整備が行き届いており、新緑の中を一人の落伍者もなく落葉の絨毯を踏締めながら笠取小屋まで歩き、水干から汲んだおいしい水を味わいました。帰りは子供連れはローラー滑り台に立ち寄り、村営のめこい湯で汗を流して帰路に着きました。

今年はいつもの世話役、藤森さんがご夫妻で飛鳥IIで世界一周の旅に出て参加でき

なかったため、齋藤が代わりを務めました。ハイキングの案内役をいただいた半田さん(会計も)、前田さん、鈴木さん、バルトン生誕150年祭の準備に忙しい谷口さんが駆けつけてくれ、小屋さんご家族で参加してくれました。齋藤は当初、参加者不足が懸念されたので、子供、孫を含めて10人で参加しました。

新緑に囲まれ、好天のもと参加者は無事に楽しかった行事を終え、来年の再会を約束して奥多摩を後にしました。



多摩川の源流(水干)を目指した参加者

**本会会員嘉田由紀子さんが滋賀県知事に就任**

本会会員、嘉田由紀子氏が、7月2日に行われた滋賀県知事選挙で当選され就任しました。嘉田さんは、水環境や水文化に関して各方面で活躍されてこられました。昨年の本会研究発表会において、「アフリカ・マラウイ湖辺での水環境保全—食糧問題とエコ便所導入」と題して発表され、尿尿文化（「うんこ親和文化」と「うんこ忌避文化」）を含めて大いに議論されました。また、ふくりゅう36号では、本会へエコトイレに対するアドバイスを求めて寄稿されました。ちょうど、本会が海外技術協力に取り組もうというという時期でしたので、大いに触発されました。今後のご活躍を期待します。

**京大環衛研シンポで優秀プロジェクト賞受賞**

7月18・19日に行われた京都大学環境・衛生工学研究会シンポジウムで本会の海外協力活動を報告した論文「バングラデシュ農村地域の衛生事情とエコ・サントイレ導入に関する研究」（保坂、高橋、酒井、高村）が優秀プロジェクト賞を受賞しました。

若い世代にもこうした活動を知ってもらいたいという気持ちで投稿したところ、思わぬ評価を得ました。衛生工学の分野でできる開発援助活動として認められたものと思います。今回の受賞により、成果が広く伝わり、できれば若い世代からの参加につながるきっかけのひとつになれば幸いです。

**地球環境基金海外派遣研修で本会プロジェクトサイトが取上げられています**

独立行政法人環境保全機構・地球環境基金が主催する平成18年度地球環境市民大学校・海外派遣研修「バングラデシュ体験活動コース」において、本会プロジェクトサイトのひとつ（初年度に行ったコミラ県）が研修コースに取り上げられています。残念ながら申し込み期限は過ぎてしまいましたが、アジアヒ素ネットワークの井戸水ヒ素汚染対策プロジェクト、オイスカのマングローブ植林活動などとともにコースが取上げられたことは、成果が認められつつあることと考えられます。詳しくは <http://www.erca.go.jp/jfge/col/pdf/haken18.pdf>

**バングラデシュ・エコトイレ普及活動だより**

昨年に引き続き、地球環境基金からの助成が内定し、もう1年活動が継続できることになりました。今年度は、新たにトイレをつくることは行わず、これまでのトイレのメンテナンスと評価、ならびに成果をバングラデシュ国内に伝播することを主目的とします。

このため、8月にセミナー、11月に広く政府関係者を招いてのワークショップを行う計画を立てています。その準備として、政府機関等へ訪問していますが、政府内部でも今普及しているトイレに対する問題意識がもたれていることがわかりました。

尿尿の農地還元に関して、尿の施肥効果や乾燥した便の性状などについては、3月に行った報告会やその後作成した報告書にまとめていますが、尿は野菜の生育にとって化学肥料と変わらない効果を持つこと、乾燥便中に大腸菌はほとんど見られないことなどが明らかになっています。現在は、乾燥便の農地還元効果をオクラで確かめているところです。

昨年、2年目にトイレ建設を行った地域では、当初戸惑いは

あったものの、現在ではきちんとした使われ方がされています。尿を田んぼに散布した農家では、効果が大きかったと言っています。

地球環境基金から助成される3年間の成果を基礎に、新たな展開も考えていかなければならない時期に来ています。JICAの草の根技術協力への申請を行うとともに、限られた資金と人材のもとで新たな活動地域で展開するため、いくつかの財団への活動申請などの試みを行っています。しかしながら、現時点では、来年度の活動の継続が保証されている状況にはありません。

本会の海外活動を通じて、世界のトイレの普及、衛生改善に寄与するため、ご支援・ご協力をお願い致します。

平成16年度、17年度の活動報告書、Bangladeshでパートナー機関のBARDが出版した英文の報告書を実費でお届けします。事務所宛 e-mail、FAX でお申込みください。

**ふくりゅう 通巻47号おもな目次**

第10回総会報告	1
バルトン生誕150年記念講演会報告	2
英国訪問ツアーの募集 「ごみの文化・尿尿の文化」刊行	3
出版記念会のお知らせ 第41回尿尿・下水研究会報告	4
第37回定例研究会のお知らせ 第20回多摩源流祭りに参加して	5

**運営委員会・事務局より**

- 総会報告でも述べられていますように、西堀評議員代表の辞意を承認いたしました。西堀氏からは物心両面にわたる多大なご支援をたまわり、それなくして今日の本会はなかったものと思います。この場をお借りして長年にわたるご貢献に厚く御礼申し上げます。
- 総会が終わり、各分科会・関西支部で新年度の活動に入っておりますが、総会当日の午前中に行われました評議員会で、分科会、支部活動の連携を図るようにとのご指摘をいただきました。尿尿・下水研究会で出版した英文冊子の海外での活用するなど取り組んでいきたいと思っております。
- 日頃のご支援に感謝いたしまして、法人会員各位へ「ごみの文化・尿尿の文化」を本会報に同封させていただきます。

**編集後記** 新年度事業計画のなかであり目立たないのですが、博物館情報交流会議への支援が途絶えてしまいました。本会の設立趣意にも関連する重要な事業内容でした。運営が下水道科学館等の施設を持つ自治体の持ち回りであったために、主旨が継承されにくいと懸念していましたが、昨年度はどうとう何の連絡もありませんでした。▶行政も情報開示やNPOとの協働をあらゆる審議会報告書に盛り込みますが、実態はまだまだお寒い状況だと思っております。（酒井 彰）

**特定非営利活動法人 日本下水文化研究会**

〒162-0067 新宿区富久町6-5 NJS富久ビル別館3F  
TEL & FAX 03-5363-1129 e-mail: jade@jca.apc.org

「ふくりゅう」では、原稿募集をしております。「水」について思うこと、身近な話題、会に対するご意見やご提案、どのようなことでも結構ですから事務局までお送りください。

**ホームページもご覧ください**

<http://www.jca.apc.org/jade/index.htm>  
関西支部 <http://www1.kcn.ne.jp/~k-atsumi/>